9月議会報告

決算議会

9月定例会は前年度の決算に関して、審査が行われます。
その方法は、まず各常任委員会が所管する項目に関して分科会を設置し審査を実施します。
さらに各会派の半数(小数点切り上げ)で小委員会を開催し、総括質疑(一問一答)を実施。最後に、全体会として認定の承認について採決を行います。
平成二十一年度決算に関しては、私は小委員会の担当ではなく所管の分科会の審査と全体会の採決に望みました。

■平成２１年度の長岡京市決算歳出総額は　250億8990万5000円

平成20年度の決算歳出総額　230億8006万7000円と比較すると、8.7%増となりました。これは、国の景気対策に伴う定額給付金事業などによる増が要因です。
しかしリーマンショックの余波による法人市民税の税収が半減する等大幅な税収減が影響して、平成21年度単年で収支の差を見る単年度収支は２年連続赤字。歳出抑制や前年からの繰越金により、実質収支3億6000万円の黒字化を図った決算となっています。経常経費の一律抑制等の行政姿勢を一定評価し、市議会として決算の認定を行いました。

■建設水道常任委員会所管の決算　一般会計土木費 32億9057万1000円(11.3%)

平成20年度決算　30億1960万1000円(13.1%)と比較して、支出額増の要因は、国の景気対策の一環として、きめこまやかな臨時対策交付金事業が実施されたこと、京都第二外環状道路「にそと」の進捗状況に合わせて工事費が増加したことが主な要因としてあげられます。その一方で、京都府施行の街路整備事業において用地取得が平成20年度で完了し、負担金が大幅に減額。土木費の決算総額に占める割合である構成比は、約2%程低くなりました。

主な事業を振り返ると、次のようなものが挙げられます。
○美しい日本の歴史的風土環境フォーラム開催　936,250円
　向日市及び八幡市とともに開催され、メインのシンポジウムが長岡京で開催されました。
○友岡地下道整備工事　15,235,500円
　暗い地下道のイメージを払拭しようと、工事と共に地下道の壁面を小学生の絵画で飾る事業も実施されました。壁画パネル作成業務委託料　815,850円
○コミュニティーバス運行助成金　22,790,000円(バスの大型化が実施されました)
○阪急長岡天神駅周辺整備検討業務委託料　3,505,950円
　阪急長岡天神駅周辺の一方通行化交通社会実験計画の策定、シンポジウムの開催

このうち、今後の課題として、コミュニティーバス「はっぴぃバス」の運行と阪急長岡天神駅周辺交通社会実験について注目しています。
(注)阪急長岡天神駅周辺交通社会実験については次のページに記載

課題

「はっぴぃバス」のこれからを考える。

本市のコミュニティバスは、平成十八年に運行が始まりました。４年間の継続運行が行われ、定着しています。しかし、その助成金の在り方については、平成二十年度に変更が行われているのです。平成二十一年度、二十二年度は２年間限定の国からの補助を受け、コミュニティバスを走らせてきました。来年度も運行を継続する場合には国の補助が無くなるため２０００万円を超える負担を市が単独で行わなければなりません。はっぴぃバスは、１便あたりの乗車率が１００%を超えて運行しなければ、黒字経営には至りません。路線を増やす、便数を増やすという選択は、赤字を税金を使っても埋めるという覚悟が必要になるのです。長岡京市は利用者に実施したアンケートを基に、今年中にむはっぴぃバスの今後の運行方針を決定するとしています

〈ゆうのの考え〉
本市においても、ご高齢の方々が増えるなかで、公共交通の充実は必要です。
私はコミュニティーバスは福祉の目的が非常に強く、これからの長岡京市においても必要なツールと考えています。今後の方針としては、継続運行を前提に、採算性を求める土木費のなかで歳出を続けるのではなく、福祉部門へ所管を移すことが必要と感じます。同時に、観光への利用、市民の方々により親しんでいただける仕掛けも必要です。利便性の向上はもちろん、管理体制の在り方についても言及していきたいと考えています。

2010.8.30　行財政改革等に関して質問

一般質問

議員が一般質問をする場合、「一般質問通告書」に質問事項とその要旨、答弁を求める者を記載して事前に議長に提出します。
今回の「通告書」提出締め切りは8月25日正午でした。その日の午後から抽選により質問の順番を決めます。今回私は二番目に質問に立ちました。

今回の質問事項は次の３点です。

① 安心・安全なまちづくりについて
② 観光戦略について
③ 行財政改革について

質問の要旨と市側の回答

〈**質問**〉安心・安全なまちづくりについて、昨年世界中で猛威をふるった新型インフルエンザに対する本市のガイドラインについてその後の経過と終息宣言　を迎えての総括を質問しました。
〈**回答**〉国や京都府の対策計画を参考にして今後もガイドラインについて検討を続ける。また終息宣言を受けての総括も市としてはできていない。
〈**質問**〉観光戦略について、主に観光戦略プラン推進会議の状況について市長の所見を質問しました。この推進会議は産業界と学校、民間、行政が横断的に参加して本市の観光戦略を構築しようとするものです。
〈**回答**〉産・学・民・行の横の連携を期待した推進会議が現状ではタテ割り的な会議となっていかを懸念している。今後の推進会議において各団体の連携強化を期待している。
〈**質問**〉行財政改革について既に実施されている「事務事業チェックシート」「補助金チェツクシート」に関して平成21年度の活用状況の評価と今後の活用についての見解を質問しました。また「補助金チェツクシート」について、方向性として現状維持の項目が117項目に昇ることへの所見を質問しました。
〈**回答**〉一連のチェック作業の結果一定の歳出削減につながっている。今後チェツクすべき事業を増やす方向でその評価基準も年々改良を加えている。補助金チェツクシートも、公正、公平な目でその優先度と必要性を検討して判断している。ただ一方では時代のニーズで新たな補助金の必要性もあり、補助金の廃止・統合の見直し時期の検討と合わせて進めていきたい。

今回の一般質問で感じましたことは「**行政のスピード感の不足**」です。
危機管理にしても、観光戦略にしても、行財政改革にしても然りです。
時代の変化に機敏に対応できる、行政としての洞察力、判断力、決断力のスピードが今求められています。